

平成30年度 長浜市健康づくり推進協議会 心の健康専門部会 要点報告

【日 時】平成30年10月18日(木) 午後1時30分～3時30分

【会議要点】

- 1 長浜市健康づくり推進協議会心の健康専門部会について
 - ・目的:「自殺対策基本法」に基づき、自殺対策を総合的かつ円滑に推進するため、心の健康課題の共通認識と課題、対策に向けて検討することを確認しました。
- 2 健康ながはま21第4期改訂および自殺対策計画策定について
 - ・健康ながはま21第4期の改定に向け、こころと休養分野の改正案についてを確認し、自殺対策計画の策定については、自殺総合対策大綱や国が示す地域自殺対策政策パッケージを基に方針とすることとなりました。
- 3 長浜市の精神保健、自殺の現状と課題について共通理解しました。

- ・自殺死亡率(人口10万対)は経年的に減少傾向である。男女比は男性69%と多く、全国、県と同様の傾向。年齢構成は、男性が30代、60歳代、80歳代が国と比較して長浜市が高く、女性は高齢の方が多い。
- ・新生児訪問における産後のうつ状態をチェックするテストにおいて、1割以上の産婦がうつ状態であり不安を抱えながらの育児を行っていると考えられる。
- ・滋賀県の自殺の現状では数は少ないが経年的にみると10歳代と80歳代で増加傾向であり、15歳から45歳未満の世代において死因の第1位が自殺となっている。

- 4 各関係機関の課題・取り組みについて各委員より報告および意見交換をしました。

- ・本人がうつ病の静養命令に応じない、また、診断書を提出しても、会社が休ませてくれないという事例があり、現状ではまだそのような状況があるようだ。
- ・精神科等専門医に通院していない人への自殺対策が重要であるが大変難しい。一般科と精神科との連携が重要。
- ・うつ病が自殺に関連することは認知されつつあるが、躁うつ病の方が自殺率が高いことを周知することが必要。
- ・出産で産後うつを発症する可能性があることを、家族や周囲の人へも周知することが必要。
- ・相談窓口を知らない人も多い。本当に困っている人たちに届くような啓発活動が重要。
- ・10代の自殺未遂者や義務教育を過ぎた若者への支援の強化が必要。
- ・教育現場では不登校の理由として心の問題を抱えている子もいるので、関係機関と連携をとることも大事だと考えている。

- 5 今後について

・部会での意見を自殺対策計画(素案)に盛り込み、11月26日(月)第2回心の専門部会にて内容の検討を行います。

平成30年度

長浜市健康づくり推進協議会 心の健康専門部会委員名簿

(H30.8.24～H31.6.30)

心の健康専門部会 構成団体		役職	氏名	健康づくり推進協議会		10月18日 部会出欠
				委員	専門委員	
学識経験者	滋賀県立大学人間看護学部	学部長	甘佐 京子	/	委嘱	○
保健医療 関係	一般社団法人湖北医師会	理事	堤 学	/	委嘱	○
	市立長浜病院産婦人科	助産師	東野 千佳	/	委嘱	○
	長浜赤十字病院 医療社会事業課	精神保健福祉士	池田 周平	/	委嘱	○
	湖北健康福祉事務所(長浜保健所)	保健師	小林 亮太	/	委嘱	○
諸団体	長浜警察署 生活安全課	係長	内橋 健太郎	/	委嘱	○
	長浜キャンパ 安全衛生課	保健師	斉藤 えみ	/	委嘱	×
	長浜市小中学校教育研究会養護教諭部会	養護教諭	三原 典子	○	/	○
	長浜市民生委員児童委員協議会	副会長	早川 紀久子	○	/	×
	長浜市社会福祉協議会 介護事業課	課長	鈴木 茂喜	○	/	○
事務局		次長	長谷川 隆浩			
		課長代理	小寄 多代			
		副参事	岸下 宜弘			
		主幹	井上 佳代			
		主査	高木 信子			